

2019.  
4/23  
6/30  
TUE  
SUN

観察する

環境考古学

# 骨ものがたり

観察する

環境考古学研究室のお仕事

# 骨ものがたり

紐解く

Works of Environmental Archaeology Laboratory

紐解く

2019.  
4/23  
6/30  
TUE  
SUN

## 骨ものがたり

環境考古学研究室のお仕事

考える

歴史を  
読み解く。

骨から  
歴史を  
読み解く。

環境考古学研究室のお仕事

推定する

古代の

古代の

奈良文化財研究所

# 展覧会の顔を作る。

広報物の制作段階では、展覧会のターゲットやタイトル、展示内容などもあわせて検討していました。展覧会のイメージ作りにおいて重要となる広報物は、ターゲットを意識しつつ、見た人に「研究室の仕事感」や「自然史系の骨の展示とは異なること」などを感じてもらえるようなビジュアルにしたいという狙いがありました。広報物の制作では、これらの狙いやコンセプトなどについて、デザイナーの大溝さんとも一緒に打ち合わせをおこない、ポスター・チラシ・招待はがきを作っていました。

B2 ポスター



広報物の制作にあたり、デザイナーの大溝さんへこちらの狙いや思いを明確に共有するようにしました。それを受けて、大溝さんが私たちのやりたいことをビジュアル化してくださり、ポスターやチラシが完成しました。【小沼】



最初の発想は「手」でした。研究室の仕事は、発掘から調査研究のすべてが、手と頭を総動員して歴史を読み解いていくことから、手にした骨をパズルを解くごとく並べていくと「骨」という文字が浮かび上がってくるビジュアルをイメージしました。「骨」という文字を骨で作るというチープなアイデアだけにディテールには神経を使いました。「骨」という文字がわかりすぎることなく、どこどなく謎めいていて、道具やキーワードなどを散りばめながら研究室の現場感を出したり、印刷の線数も粗くしたりするなど、何だかザワザワするようなワクワク感を大切にしました。【大溝】



## — 広く情報を届ける。

展覧会の開催を広く発信するために、広報物の掲示や配布だけでなく、奈良文化財研究所や飛鳥資料館のHPとFacebook、広報誌『奈文研ニュース』での情報発信、そして、新聞やテレビやラジオなど、複数のメディアを併用しながら広報をおこないました。特にHPとFacebookでは、会期の前から準備風景などの写真を公開し、会期中にも継続的に情報を出し続けることで、より多くの人の目に情報が届くように意識しました。また、今回は複数のテレビ番組に何度も取り上げてもらえたことで、普段はなかなか情報が届きにくい層の人へのアプローチにつながりました。



招待はがき

招待はがきは、大満さんの提案でスクラッチを削ると骨や文字が現れるという仕様にしました。スクラッチを削るという仕掛けによって、はがきに書かれた情報が「見るもの」から「体験できるもの」になり、受け取った人が楽しみながら、展覧会に興味を持ってもらえるようなものに仕上がったと思います。

このような斬新なアイデアや視点は、研究所内のメンバーだけでは出てこないで、デザイナーさんと一緒に仕事をすると楽しさでもあります。

【小沼】



環境考古学研究室でのテレビ取材



展覧会開催前日の報道発表



「奈文研ニュース」での展覧会とリンクした情報発信



HPやSNSを活用した情報発信



## — 広報物を展示とリンクさせる。

広報物に掲載した骨の名前や部位などの詳細については、展示室の一角で紹介するコーナーを設けました。掲載した骨に関連している展示コーナーも記載し、広報物と展示をつなげるようなコーナーにしました。

ポスターから手作りした封筒を、お渡しした記者さんたちが「ポスターなんですか!」と驚いてくださって嬉しかったです。細かい部分までこだわって作り込んだ展覧会だったので、記者発表でも小さなサプライズを用意しました。【辻本】



報道発表時には、取材に来てくださった記者さんたちに展覧会をより楽しんでもらうという思いから、ポスターで作った封筒に配布資料を入れて渡しました。